

平成 29 年 5 月 30 日（火）13：00～13 時 48 分

本庁本館 5 階 501 会議室

## 定例記者会見 議事録

### 【司会】

それでは只今から定例記者会見をはじめます。

初めに、平成 29 年西条市議会 6 月定例会提出予定議案についてです。市長、お願いします。

### ○平成 29 年西条市議会 6 月定例会提出予定議案について

#### 【市長】

本日は、お忙しい中ご参集いただきましてありがとうございます。早速ですが、平成 29 年 6 月定例会提出予定議案等について発表させていただきます。

まず、定例会の招集日は 6 月 5 日月曜日、提出議案は、予算案 5 件、条例案 3 件、その他案件 12 件の合計 20 件を予定しております。

条例案の中には、先般発生しました、市有施設（燧洋幼稚園旧園舎）の解体工事に伴います職員の不適切な業務処理により、行政に対する信用を失墜させたことに対し、組織の長としての責任を明確にするため、私をはじめ、副市長、教育長の給料を減じるための条例案も含まれております。

ここに改めて、お詫びを申し上げますとともに、より一層適正な業務の遂行に努めてまいります。

次に、6 月補正予算措置事業の概要につきまして報告します。

今回の補正予算では、本市の魅力の創出・発信や起業家の誘致・育成のための経費など、「ワクワク度日本一の西条」の実現に向けた取り組みのほか、国・県補助の内示や見通しがついた公共事業を中心に、都市基盤の整備や農林水産業の振興、子育て環境の整備など、市民生活に密着し、当面对応しなければならないもの、また時期的に今回計上することが適当と判断したものについて補正措置を行うことといたしました。

主な内容といたしましては、シティプロモーション推進のための戦略策定や、ローカルベンチャーの誘致・育成を行うことといたしました。

次に、都市基盤の整備につきましては、市民の健康増進・憩いの場となり、災害時には防災拠点にもなる東部公園、丹原中央公園の整備に着手いたします。

また、農林水産業の振興につきましては、農業生産力の向上のため、労働力確保戦略センターの設置や産地間連携等を進めます。

子育て環境の整備としましては、小松地域における子育て支援センターの整備などを行います。

この結果、一般会計の補正予算額は 32 億 2,632 万円となり、特別会計及び水道事業会計を合わせた、全会計の補正予算の合計額は、34 億 9,020 万 7 千円となっております。

詳細につきましては、担当部長から説明をさせていただきます。

## ○議案関係詳細説明

### 【総務部長】

私から、条例等の議案につきまして、「平成 29 年 6 月定例会提出議案概要（記者発表資料）」に基づきましてご説明を申し上げます。

1 ページ、議案第 62 号は、条例で予定価格が 1 億 5,000 万円以上の工事契約は、議会の議決が必要なことから提出するものです。

2 ページ、議案第 63 号は、条例で予定価格が 2,000 万円以上の動産の買入れは、議会の議決が必要なことから提出するものです。

3 ページ、議案第 64 号は、条例で予定価格が 2,000 万円以上で 1 件が 5,000 平方メートル以上の土地の取得は、議会の議決が必要なことから提出するものです。

4 ページ、議案第 65 号は、「(仮称) 子育て支援センター整備事業」に併せて、小松温芳図書館北線を市道路線として認定しようとするものです。

5 ページ、議案第 66 号は、現在実施しております「林道 峰下影線」の整備を引き続き「辺地総合整備計画」を策定して対応しようとするものです。

6 ページ、議案第 67 号は、市長、副市長、教育長の 7 月分の給料の 10 分の 1 を減じるものです。

7 ページ、議案第 68 号は、法律改正に伴い、主には 3 点の条例改正を行おうとするものです。1 点目は、軽自動車税のグリーン化特例で、現行の燃費基準を 10% 上乘せして、本年度と平成 30 年度に新規取得される軽自動車について、軽減措置を適用するものです。2 点目は、優良住宅地の造成等のために土地等を譲渡した場合の長期譲渡所得に係る、市民税の課税の特例の適用期限を 3 年間延長するものです。3 点目は、保育の受け皿整備の促進等のための税制上の特例措置（通称：わがまち特例）を導入しようとするもので、税率につきましては、国の標準的な特例割合を採用しております。

8 ページ、議案第 69 号は、政令の施行に伴い、軽減判定の計算式において被保険者の数に乗すべき金額を、5 割軽減は現行 26 万 5 千円のところを 27 万円に、2 割軽減は現行 48 万円のところを 49 万円に改正するものです。

9 ページ、報告第 6 号は、平成 28 年度西条市繰越明許費繰越計算書です。

10 ページ、報告第 7 号から 12 ページの報告第 9 号までの 3 件は、地方自治法の規定により報告するものです。

13 ページ、14 ページは、市営住宅使用料と水道料金の債権の権利を放棄しましたので、報告するものです。

最後に 15 ページ、報告第 12 号は、市営住宅の明渡しに関する訴えの提起を専決処分しましたので、報告するものです。

## ○予算関係詳細説明

### 【財務部長】

私からは、予算関係の議案第 57 号から議案第 61 号までの 5 件につきまして、ご説明申し上げます。

「平成 29 年度 6 月補正予算について」をご準備ください。

1 ページは 6 月補正予算の概要につきまして掲載しております。

2 ページは 6 月補正における会計別予算の規模です。一般会計の 6 月補正予算額の欄ですが、32 億 2,632 万円で、累計予算額は、右側の計 (A) 欄、458 億 4,632 万円となり、前年同期と比較いたしますと、(D) 欄、金額で 10 億 3,964 万 1 千円、率にすると、右端の増減率の欄、2.2%の減となっております。

次に特別会計の主なものを申し上げますと、国民健康保険特別会計では、5 億 2,308 万 7 千円の減額補正、簡易水道事業特別会計では、958 万円、公共下水道事業特別会計では、6 億 6,235 万 7 千円など、3 つの特別会計では、小計の欄、1 億 4,885 万円の補正となっております。

また、企業会計の補正予算額では、水道事業会計が 1 億 1,503 万 7 千円の補正となっております。

これらの全会計を合計いたしますと、一番下の合計欄、補正予算額は 34 億 9,020 万 7 千円で、累計予算額は、814 億 7,371 万円となり、前年同期と比較しますと、(D) 欄、金額で 24 億 7,969 万 5 千円、率にして 3.0%の減となっております。

続きまして、主な事業につきまして、新規事業を中心に、ご説明申し上げます。

3 ページ、「(仮称) 子育て支援センター整備事業」1 億 815 万 8 千円は、小松地域における子育て支援の拠点を整備し、地域における子育て支援体制の充実を図るものです。本年度は、事業認定申請図書作成等委託料及び用地購入費等を計上しております。次の「保育施設整備助成事業」1 億 4,624 万 2 千円は、古川保育園の老朽化が進む園舎の改築経費に対して助成を行うものです。完成予定は、平成 30 年 3 月となっております。

4 ページ、「認定こども園整備事業」8,213 万 3 千円は、さくら保育園が認定こども園に移行するために行う、園舎の増築経費に助成を行うものです。開園予定は、平成 30 年 4 月となっております。

5 ページ、こちらは公共下水道事業特別会計です。西条処理区及び東丹処理区の、管渠整備事業として 6 億 4,637 万 2 千円を計上しております。次の「地方公営企業法適用事業」636 万 3 千円は、公共下水道事業に公営企業法に基づく企業会計を導入するための企業会計システム導入委託料等を計上しております。

7 ページ、2 番目の「下田明理川線道路改良事業」1,005 万 3 千円は、丹原町願連寺から明理川までの南北に接続するバイパス路線を整備するもので、事業期間は平成 29 年度から平成 34 年度までの 6 年間、総事業費は約 9 億円を予定しております。本年度は、測量設計委託料等を計上しております。

8 ページ、2 番目の「小松中央公園改修事業」5,010 万 9 千円は、既存の交通広場をグラウンドゴルフ場へ再整備するため、サブコースの増設と駐車場の拡充を行い、更なる利便

性の向上を図るものです。

9 ページ、「東部公園整備事業」1 億 1,377 万 5 千円は、市の東部地区におけるスポーツ活動及び防災の拠点として整備するものです。本年度は、実施設計委託料、用地費等を計上しております。次の「丹原中央公園整備事業」9,505 万 3 千円は、一部未整備部分があった丹原中央公園を再整備し、公園施設の安全性の確保と利便性の向上を図るものです。本年度は、実施設計委託料、用地費等を計上しております。

11 ページ、「消防水利整備事業」4,286 万円は、火災防御のための消防水利機能に加えて、震災時の生活用水確保にも資する耐震性貯水槽 3 基と防火水槽 1 基を整備するものです。次の「消防車両等整備事業」1,911 万円は、地域消防力の充実強化を図るため、三芳分団の消防ポンプ自動車を更新整備するものです。

12 ページ、「西条西中学校屋内運動場等整備事業」2,600 万円は、老朽化し、耐震強度が不足している西条西中学校の屋内運動場を建て替え、安心、安全な教育環境の整備を図るものです。本年度は、実施設計委託料を計上しております。次の「東予東中学校技術室棟整備事業」470 万円につきましても、老朽化し、耐震強度が不足している東予東中学校の技術室棟を建て替えるものです。本年度は、実施設計委託料を計上しております。

13 ページ、「学校現場における業務改善加速事業」331 万 9 千円は、文部科学省のモデル事業として、西条東中学校をモデル校に、教職員の勤務実態の把握や、負担軽減のための先進事例の調査、研究等を実施し、業務の効率化、適正化に繋げ、教職員の多忙化の解消や負担感の軽減を図ることで、子どもたちとじっくりと向き合う時間の確保に繋げることを検証するものです。次の「特別支援教育に関する実践研究充実事業」40 万円は、小松小学校を研究指定校に、知的障がいや有する児童に対し、発達の偏りに応じた通級による指導を行い、その教育効果を検証するものです。

14 ページ、「農業労働力最適活用支援事業」479 万 6 千円は、JA や県等との連携による「労働力確保戦略センター」を新たに設置し、他地域との産地間連携等による新たな労働力を確保する仕組みを構築し、地域の農業生産力の向上を図るものです。

16 ページ、2 番目の「ローカルベンチャー誘致・育成事業」904 万 6 千円は、地方で起業を目指す都市の若者等を、地域おこし協力隊として誘致・育成し、本市に定着化を図るシステムを構築することで、新たな地方創生モデルを創出するものです。本年度は、地域資源を活用したプロジェクト設定や中心的役割を担うローカルベンチャー3 人の募集に係る委託料等を計上しております。

17 ページ、「瓶ヶ森ヒュッテ整備事業（石鎚山系魅力発信事業）」1,379 万 4 千円は、瓶ヶ森ヒュッテの一部を取り壊し、避難小屋とトイレを新たに整備するものです。

最後に 18 ページ、「シティプロモーション推進事業」1,031 万円は、本市が「選ばれる地域」になるために、「シティプロモーション戦略」を策定するとともに、各種施策の効果的な展開を図り、観光客増加、定住人口獲得、企業誘致等に繋げるものです。本年度は、主にシティプロモーション戦略策定支援業務委託料等を計上しております。

以上をもちまして、予算関係の説明を終わらせていただきます。

**【司会】**

只今説明いたしました内容につきまして、ご質問がありましたらお願いいたします。

**【記者】**

補正予算の規模としては昨年並みだと思うが、「市長の色」を存分に出せたか。

**【市長】**

当初予算では、まだまだ自分の想いを反映できていない部分がありましたので、関係部局と調整しながら盛り込ませていただいた部分が多くあります。金額の大小ではなく、政策の中にそれを入れさせていただいています。

**【記者】**

具体的にいうと、シティプロモーションの戦略策定とローカルベンチャーか。

**【市長】**

そうですね。すべて大切な事業で、ローカルベンチャーもそうですが、シティプロモーション推進事業に対しても、強い想いを持っています。

**【記者】**

ローカルベンチャーでいうと、地域おこし協力隊が、地域に残ってそのまま地域おこし事業を本格的に事業化するのに苦戦していると思うが、その辺りとはどういう違いを出していくのか。

**【市長】**

「地域おこし協力隊をどうして導入しないのか?」「県下でも最終ランナーになってきている」と思っていました。が、「起業型の地域おこし協力隊員」という事業があることを確認しまして、予算措置を検討しながら、団体にアプローチして、都市部から人を呼び込み西条市内の地域資源を活かしながら起業してもらいたいということです。少し詳しく産業経済部長からお願いします。

**【産業経済部長】**

事業概要といたしまして、地域資源を活用し、課題解決に向けたプロジェクトを発掘する、またそのプロジェクトに取り組む起業家を都市部から誘致、育成し、定着を図るというものです。西条市の地域資源を活用するとともに地域課題の解決に向けたプロジェクトを見つけ出すというのが、今までにない地域おこし協力隊の活用のやり方ということです。今年、地域おこし協力隊員3名を募集し、事業運営の拠点・事業の進捗管理等を担う事務局を設立し、どのような課題があるか、どのようなプロジェクトができるかということ、来ていただいた地域おこし協力隊の方に調査、立案していただきます。プロジェクトが決まりましたら、そのプロジェクトをやろうという地域おこし協力

隊 10 名を募集するという仕組みです。

平成 29 年度に、事務局的な 3 名を募集し、計画の策定や地域資源の調査、プロジェクトを立案していただく。プロジェクトが決まりますと、平成 30 年度から 10 名の地域おこし協力隊を募集するという、プロジェクト型・起業型の地域おこし協力隊ということです。

【記者】

県内でこのようなやり方をやっているところはあるのか。

【産業経済部長】

四国初です。

【記者】

似たようなことを全国各地でやっているのではないか？何が初なのかよくわからない。

【産業経済部長】

このような仕組みで実施するというのが初です。

課題解決するプロジェクトを発掘して、それに対して募集をかけていくというやり方が初ということです。

【記者】

ゼロからやるのか？

【産業経済部長】

そうです。

支援側の 3 名が入っているのが特徴です。

【記者】

その 3 名が何をするのか？

【産業経済部長】

3 名は地域課題の発掘やプロジェクトの立案、進捗管理、後から募集する 10 名が実施するプロジェクトが事業として成り立つよう、支援側に回るといことです。

【記者】

その 3 名はどういう人を考えているのか？

【産業経済部長】

経営アドバイスやプロジェクトの進捗管理が図れる方を3名。その3名が非常に重要なポイントになると考えています。

【記者】

3名を雇うのですよね？

【産業経済部長】

地域おこし協力隊として来ていただくということです。

【記者】

ボランティアか？

【産業経済部長】

地域おこし協力隊として来ていただくということです。

【記者】

予算が900万円。他に仕事をしている方か？西条市に来てもらうわけだから、生活費などは負担しないのか？

【産業経済部長】

それについては、地域おこし協力隊の費用で活動していただくということです。

【市長】

地域おこし協力隊も、雇用条件などで問題を抱えているという記事を拝見しますが、西条の地域資源を興してもらい、その中から起業してもらおうということで、誘致・育成事業を実施するという事です。

【記者】

どういったものをイメージしているのか？

【産業経済部長】

例えば、内部検討の段階ですが、観光物産協会とプロジェクトを組んで観光のプラットフォームを構築できないか。また、商店街の空き店舗対策ということで、空き店舗を活用して起業する方を協力隊として募集し商店街の活性化に役立てないか。更には、絹かわなすという伝統野菜がありますが、担い手が不足していますので、やろうという方に来ていただけないかなど。

経営が成り立つプロジェクトを組めるかどうかが問題ですが、それを解決したい。これらの発掘の仕方も含め、最初の3名で今年度プロジェクトを決めていくということです。

【記者】

外部から呼んできた方がより効率的という判断か？

【産業経済部長】

はい。現在もIターンやUターンで活躍されている方がおられます。そういった外部の方の目で地域資源を見たときに、どのように役立てられるのか。大きな成果があると思ひ、地域おこし協力隊を活用するということです。

【記者】

事務局の3名というのは、事業終了後、会社やNPOを作って自立しているというイメージか？

【産業経済部長】

はい。

【市長】

今までの地域おこし協力隊とは少し違います。その地域に入ってそこから考えるのではなく、あらかじめ地域資源や地域が抱えている課題を洗い出した中で、選択をしていただくということなので、まさにチャレンジです。

【記者】

東部公園は新設か。

【市長】

既存です。既にグラウンドがあり、その拡充・整備です。

【記者】

西条東中学校の「学校現場における業務改善加速事業」というのは、全国や県でもいろいろやっているのか？

【教育委員会指導部長】

文部科学省から県に事業が降ろされ、県内では希望制です。聞いているのは、西条市と新居浜市の2市で実施ということです。



## ○2017 日台観光サミット in 四国 日台鉄道観光フォーラムについて

### 【市長】

平成 29 年 5 月 31 日金曜日から 6 月 4 日日曜日に「日台観光サミット in 四国」が開催されます。

日台観光サミットは、日台の双方交流推進を目的として 2008 年から毎年、日本と台湾交互で開催され、今年で 10 回目の開催となります。昨年、私も台湾の宜蘭（ぎらん）に行かせていただきました。

今回は第 10 回を記念いたしまして、新幹線の生みの親、十河信二氏とゆかりの深い西条市で、6 月 2 日金曜日に「日台鉄道観光フォーラム」が開催されることになりました。

また、「鉄道観光フォーラム」開催に合わせ、鉄道歴史パーク inSAIJO の視察、西条市長主催昼食交流会を開くほか、フォーラム会場である西条市総合文化会館展示室で、「日本と台湾 鉄道が繋ぐ未来～西条市が生んだ 3 偉人の功績～」と題し、フォーラム記念展を行う予定です。

このフォーラムを契機といたしまして、参加者の皆様に鉄道と西条市の深いつながりを感じていただきたいと考えております。

### 【司会】

只今説明いたしました内容につきまして、ご質問がありましたらお願いします。

### 【記者】

西条市として今後、鉄道を題材にした台湾との交流を考えているか？

### 【市長】

今のところ「これを」と決めたものはないですが、愛媛県が台湾との交流を促進しており、その切り口はサイクリングと思っています。今 3 偉人と申しましたが、松木幹一郎氏が西条市出身ということもあり、鉄道、あるいは電力という切り口で、県とも相談をしながら、切り口を変えて交流を深めていきたいと考えております。